

3 避難所の開設・運営

事例 3-1

市総合防災訓練 地域会場訓練（城山地区）

城山地区連合自主防災隊と関係機関の連携により、平成28年度相模原市総合防災訓練の地域会場訓練の一環として、避難所運営を中心とした訓練を実施しました。

【取組の目的】

地域における「自助」「共助」の意識向上と
地域防災力の強化を図ること。

【主な取組内容】

- ・ 救援物資受入訓練
- ・ 避難所体験訓練
- ・ 給水、炊き出し訓練 ほか



ここがポイント！

1. 災害が実際に発生したことを想定して、訓練参加者を避難所運営マニュアルの班と同じような役割で班に分けました。
2. 訓練参加者自身がどの班に属しているかを分かり易くするため、カラーリボンやカラーテープを使って、各班を色分けしました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

必要なモノ

マニュアル、ダンボール（間仕切り用）、敷きシート、給水袋、炊き出し用調理器具・食器、ゼッケン・リボン

必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）
救援物資・搬送用車両の手配、消防団や消防署など防災関連機関への指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P44参照】）

【問い合わせ先：城山まちづくりセンター（042-783-8117）】

事例 3-2

共和小学校 避難所運営訓練（大野北地区）

共和小学校避難所運営協議会は、災害が発生し、避難者が体育館に集まったという想定で、避難所立ち上げから運営に至るまでの訓練を実施しました。

【取組の目的】

避難所を立ち上げる際の手順と役割を確認することによって、実際に災害が発生したときに、混乱しないで対応できるようにすること。

【主な取組内容】

- ・ 校内施設の確認（備蓄倉庫、給水タンク、ろ水機等）
- ・ 倉庫から体育館への物品搬送訓練
- ・ 運営本部の設置、避難者の受け入れ訓練 ほか



ここがポイント！

1. 9つある作業班を3つのグループに分けて、避難所運営マニュアルの「まずやりましょう」の項目を重点的に確認し、避難所立ち上げ期におけるスムーズな対応を目指しました。
2. 体育館に敷きシートを並べて、避難者の居住スペースがどれくらい確保できるか確認をしました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

展示用マンホールトイレ、避難者名簿（避難所受付用）、敷きシート

必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）

校内施設の見学について学校と調整・鍵等の用意

展示用機器の搬送及び設置の手配、説明要員の確保

【問い合わせ先：大野北まちづくりセンター（042-752-2023）】

事例 3-3

地区合同防災訓練（大沢地区）

大沢地区連合防災隊と避難所、消防団、まちづくりセンターによる合同の防災訓練を実施しました。大沢地区内の複数の避難所で訓練を実施し、無線機等を有効に活用することにより、災害時に近い状況で訓練を行うことができました。

【取組の目的】

大震災により被害を受けたことを想定し、一時避難場所から避難所への移動訓練と避難所各班の訓練を行う。

【主な取組内容】

- ・ 一時避難場所から避難所への移動訓練
- ・ 防災用無線機を活用した通信訓練
- ・ 起震車や煙体験ハウスを使用した体験型の訓練 ほか



ここがポイント！

1. 大沢地区内の6箇所の避難所で訓練を実施したことによって、地区内の1箇所で訓練を実施していた時よりも、住民の方が参加しやすくなり、参加者数も増えました。
2. 本部と避難所の情報伝達は、実災害を想定して防災無線を活用しました。
3. 訓練終了後に本部まとめ会議を開くことで、訓練の課題を共有することができました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

必要なモノ

炊き出し用食材、起震車・煙体験ハウス（お近くの消防署で申請できます【P 4 4 参照】）、無線機

必要なコト

学校避難所ごとの防災訓練計画の作成、起震車・煙体験ハウスの利用申請、アルファ化米の手配、訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）、消防団や消防署などへの指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P 4 4 参照】）、無線機の使用方法の周知

【問い合わせ先：大沢まちづくりセンター（042-761-2610）】

事例 3 - 4

情報伝達訓練（藤野地区）

藤野地区連合自主防災組織では、地震に伴う大規模な土砂災害が発生し、地区内の一部が孤立状態になったことを想定し、孤立した避難所から情報を収集する訓練を実施しました。

【取組の目的】

単位自主防災組織から連合自主防災組織への情報伝達訓練を実施し、有事の際の迅速な情報伝達に備えること。

【主な取組内容】

- ・ 衛星携帯電話や個人所有の携帯電話を使用した情報伝達訓練
- ・ 連合自主防災組織における情報収集と共有の訓練 ほか

ここがポイント！

1. 災害・被災状況連絡票を使用することにより、確実に聞き取りを行うことができました。
2. 聞き取った内容をホワイトボードに記入することにより、本部メンバー間で情報共有を図ることができました。
3. 衛星携帯電話の特徴的な取扱方法（起動方法・電波受信）について、改めて確認することができました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

必要なモノ

無線機、衛星携帯電話（孤立対策推進地区に配備）、ホワイトボード
災害・被災状況連絡票、住宅地図

必要なコト

訓練場所の確保（区役所やまちづくりセンターと調整）
無線機及び衛星携帯電話の使用方法の周知、連絡先リスト（電話帳）の用意
タイムスケジュールの作成、ホワイトボードへの転記方法の習得

【問い合わせ先：藤野まちづくりセンター（042-687-2119）】

事例 3-5

避難所通信訓練（橋本地区）

橋本地区連合自主防災隊と地区内の4箇所の避難所が同日に運営訓練を実施しました。また、訓練実施後はアンケート調査を実施し、訓練内容の見直しについても議論しました。

【取組の目的】

現地対策班、連合自主防災隊、避難所運営協議会相互の連携を強化するとともに、情報を共有する体制を構築するための訓練を実施する。

【主な取組内容】

- ・ デジタル地域防災無線による通信訓練
- ・ 現地対策班と連合自主防災隊による対応協議の訓練 ほか

ここがポイント！

1. 自主防災隊と避難所運営協議会との役割分担や、それぞれの位置づけを明確にしておくことが重要です。
2. アンケートを実施したことで、訓練参加者のニーズに合った訓練を企画することができました。
3. 複数の情報通信機器を使った訓練を実施することで、災害発生時の通信インフラの障害に柔軟に対応することができました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

必要なモノ

デジタル地域防災無線、ホワイトボード、住宅地図

必要なコト

訓練場所の確保（区役所やまちづくりセンターと調整）

無線機の使用法の周知、連絡先リスト（電話帳）の用意

ホワイトボードへの転記方法の習得

※現地対策班への業務連絡のため、避難所担当市職員用の PHS を配備していましたが、PHS サービスが終了したため、現在は職員用としてスマートフォンが配備されています。

【問い合わせ先：橋本まちづくりセンター（042-703-0354）】

事例 3-6

田名地区・中央区役所情報伝達連携訓練（田名地区）

田名地区連合自主防災隊では中央区本部と連携し、情報伝達連携訓練を実施しました。訓練では各組織を配置し、住民の安否情報や地震被害に係る緊急情報などの各種情報を、簡易無線やデジタル地域防災無線、伝令等を用いて、各組織間で伝達を行うとともに、収集した情報を基に安否確認等の対応を行いました。

【取組の目的】

田名地区の自主防災組織と中央区本部が合同で防災訓練を行うことにより、災害発生時の各組織の行うべき役割を確認するとともに、各組織の連携強化を目的とする。

【主な取組内容】

- ・ 住民の安否情報や避難所の避難者数などの情報の他、災害発生場所や災害周辺住民の避難など緊急情報等の情報伝達訓練
（伝達経路） 区本部⇔現地対策班⇔地区連本部⇔単位自主防災隊、
避難所⇔現地対策班⇔区本部
- ・ 区本部、現地対策班、地区連本部の各所における情報共有訓練（伝達を受けた情報を記録用紙やホワイトボード、地図等へ記録する、など）
- ・ 収集した情報のうち、対応が必要なものについての対応検討訓練

ここがポイント！

1. 実践的な情報伝達訓練を実施することにより、特に地区連合自主防災隊と現地対策班等の連携強化を図ることができました。
2. 無線担当、記録担当、伝達担当などの役割分担を明確にしました。
3. 円滑な情報伝達を行うため、無線機やホワイトボード等の設置場所、各担当の配置場所を効率的な導線にしました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

各組織の会場確保、机、椅子、各種無線機、ビブス、地図、筆記用具、記録用紙、ホワイトボード、伝達する情報、各組織の防災計画及びマニュアル

必要なコト

訓練参加者の共通理解（参加機関の打合せ）、無線機のチャンネルや充電の確認、無線機の通信確認、組織の計画やマニュアル等の確認、各担当等の業務内容の確認

【問い合わせ先：田名まちづくりセンター（042-761-0056）】

事例 3-7

清新地区・中央区役所情報伝達連携訓練（清新地区）

この訓練は、清新地区と中央区役所が連携し、災害発生時に各組織が行うべき役割を確認するとともに、組織間の連携強化や防災意識の向上のために行われました。

【取組の目的】

清新地区の自主防災組織と中央区本部が合同で防災訓練を行うことにより、各組織の役割確認、組織間の連携強化、情報伝達訓練を通じた無線機等の操作能力の向上を目的とする。

【主な取組内容】

- ・ デジタル簡易無線及び携帯電話を使用した情報伝達連携訓練
- ・ 避難所開設及び運営訓練（避難者受け入れ、避難者数などの避難所の状況確認及び報告、不足物品報告及び対応など）

【参加人数】

92人（清新地区連合自主防災隊6人、清新地区現地対策班3人、中央区本部2人、小山小学校避難所36人、清新小学校避難所24人、清新中学校避難所21人）

ここがポイント！

1. 清新小学校では予行演習を行っていたため、前例のない訓練でしたが滞りなく実施することができました。
2. 物品が不足しているという報告（アドリブ）への対応を行うことで、実際の災害時の対応と同じような緊張感をもって訓練を実施することができました。

📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

伝達内容を記録するための用紙（送信側、受信側双方）、訓練進行表、報告用の携帯電話及びデジタル簡易無線機

必要なコト

打ち合わせ会議による訓練内容・日程等の調整

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

事例 3-8

土砂災害対策訓練（藤野地区）

藤野地区牧野地域の各自治会、要援護者施設、消防団、警察、区役所・まちづくりセンター等が連携して、土砂災害を想定した訓練を実施しました。避難誘導訓練や防災講習、ワークショップなどで構成され、地域住民の防災意識の高揚を図ることができました。

【取組の目的】

- ・ 風水害時における迅速な避難及び避難所の開設
- ・ 地域住民の土砂災害に関する知識・防災意識の向上
- ・ 地域住民自らが継続的に訓練を実施するための動機づくり など

【主な取組内容】

- ・ 情報伝達訓練（ひばり放送や消防団等による車両広報）
- ・ 避難誘導訓練（避難指示等の発令に伴う避難誘導訓練の実施）
- ・ 避難対策ワークショップ（土砂災害ハザードマップ等を活用した住民参加型のワークショップ）



ここがポイント！

1. 土砂災害ハザードマップを活用したワークショップにより、地域に潜在する危険性について理解が深まり、避難経路の検証を行うことができました。
2. 地域内の要援護者施設が訓練に参加したことで、災害発生時における相互の協力体制について再確認できました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

土砂災害ハザードマップ、地域の地図を拡大したもの、防災講習に使用するDVD・パワーポイントなどの資料、パソコン

必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）
防災講習の講師の手配及び消防団や消防署など防災関連機関への指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P44参照】）、地域住民への訓練実施の周知・参加の呼びかけ

【問い合わせ先：緊急対策課（042-707-7044）】

事例 3-9

女性の視点に立った避難所の運営訓練（大野中地区）

大沼小学校避難所運営協議会、大野台小学校避難所運営協議会、消防、区役所・まちづくりセンター等が連携して、女性の視点に立った避難所運営訓練を実施しました。事前に実施した運営体制づくりを含め、女性のニーズを反映した避難所運営を構築しました。

【取組の目的】

- ・ 女性の視点やニーズを反映した避難所運営体制の構築
- ・ 女性専用スペースの設置
- ・ 避難所運営協議会に女性が積極的に参画できる環境づくり など

【主な取組内容】

- ・ 避難所開設訓練（女性の専用スペース等の設置）
- ・ 避難所運営訓練（被害情報、避難者カード等の情報集約等） など



ここがポイント！

1. 避難所運営協議会に9つある班のうち、4つの班の班長に女性を任命するなど、女性が避難所運営に参画しやすい環境の整備を行い、意見を運営体制に反映することができました。
2. 地域内の防災マイスターに協力を要請することで、計画の立案等をスムーズに行うことができました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

班分けを行うためのゼッケン、案内看板（張り紙）

※運営訓練に必要な資機材は、災害時に実際に使用するものを使用

必要なコト

訓練会場の確保（できれば災害発生時の避難所として指定されている場所が望ましい）

防災講習の講師の手配及び消防団や消防署など防災関連機関への指導依頼（お近くの消防署でご相談できます【P 44 参照】）、地域住民への訓練実施の周知・参加の呼びかけ

【問い合わせ先：大野中まちづくりセンター（042-741-6695）】

事例 3-10

鵜野森中学校避難所開設・運営訓練（大野中地区）

鵜野森中学校避難所運営協議会が実施した防災訓練では、災害が発生し避難者が体育館に集まったという想定で、避難所立ち上げから運営に至るまでの訓練を行いました。

【取組の目的】

これまであった避難所開設及び運営時の事象を参考に、訓練時の状況を想定して、効率的な避難者数の把握のための訓練を行うとともに、実際の避難生活がどのようなものかを学ぶことを目的とする。

【主な取組内容】

- ・ 避難所倉庫から屋内運動場への資機材搬送
- ・ 避難所の設営訓練
- ・ 避難者の受付訓練（人数把握、誘導等）
- ・ 段ボールベッド、エアベッドの組立訓練と使用体験

【参加人数】

60人

ここがポイント！

1. 避難者同士が円滑なコミュニケーションをとれるような避難所運営の方策を考えました。
2. 段ボールベッドとエアベッドは設営が簡単なため、なるべく多くの人に設営を体験してもらい、避難所開設時には円滑にベッドを設営できるように準備をしました。

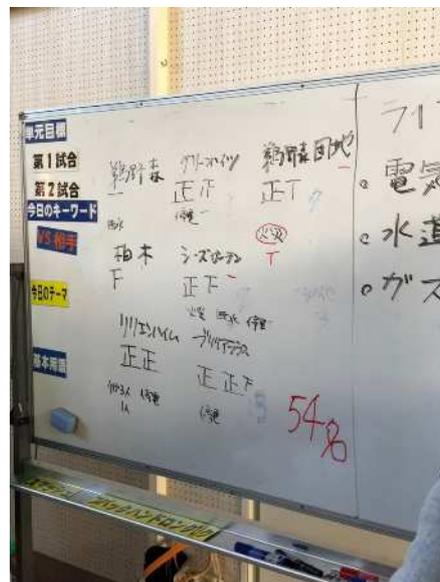
📌 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

ホワイトボード、ネームプレート、筆記用具、
段ボールベッド、エアベッド

必要なコト

避難所の開設・運営について事前に役割分担すること



【問い合わせ先：大野中まちづくりセンター（042-741-6695）】

光が丘地区自治会連合会及び地区内5避難所運営協議会との合同で、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた訓練を行い、避難所運営についての考え方を刷新しました。

【取組の目的】

従来の避難所の運営手順に新型コロナウイルス感染症対策を追加することで、現状に即した避難所運営の準備方法・考え方に改めることを目的とする。

【主な取組内容】

- ・ 避難者の受付訓練（発熱の有無確認、体調不良者用スペースまでの動線確保など）
- ・ 屋内運動場内の居住スペースの見直し（3密回避のため一人当たりの面積を拡大）
- ・ 避難スペースを目的別に追加設定（乳幼児用、要援護者用など）
- ・ 校庭への車両受入れを想定した準備（駐車位置の確認など）

【参加人数】

150人程度（避難所1箇所につき30人程度×5箇所）

ここがポイント！

1. 施設管理者（学校）・市担当者・運営協議会役員で事前打ち合わせを実施し、利用教室（追加の避難スペース、体調不良者用スペースなど）の再設定・必要資機材の追加などを行いました。
2. 現状の運営方法等についての「まとめ冊子」を作成して参加者全員へ配布し、各避難所運営協議会の現状の把握を促すことで、実際の現場対応力の向上を図りました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

必要なモノ

- ・ 感染症対策資機材（非接触型体温計・フェイスシールド・健康チェックシート他）
- ・ 事前に更新した「施設利用図」・「避難所立ち上げ手順書」など
- ・ 校庭への車両配置図と準備に必要な資機材

必要なコト

施設管理者（学校）・避難所担当職員・協議会役員での事前協議
訓練参加者への事前説明会の開催（訓練内容、訓練手順など）

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

事例 3-1-2

向陽小学校 避難所運営訓練（小山地区）

向陽小学校避難所運営協議会では、体調不良者用スペースへの誘導路や感染症対策方法の確認など、避難所運営全般に関する訓練を行いました。

【取組の目的】

避難者受付時の飛沫感染防止対策の策定や、事前に定めた体調不良者用の教室の確認等を通して、「避難者が安心して過ごせる避難所運営体制」に必要なことは何かを考え、整備することを目的とする。

【主な取組内容】

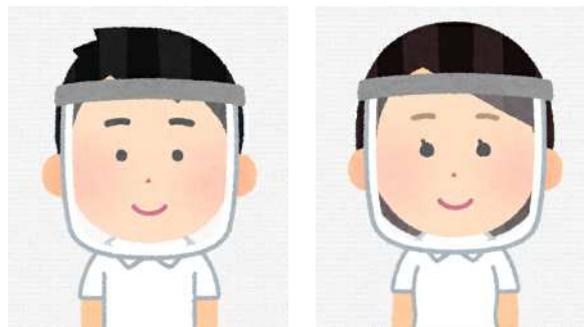
- ・ 体調不良者用スペース（教室）までの誘導路確認
- ・ 避難、滞在スペースの確認
- ・ 避難者受付訓練
- ・ 避難所倉庫備蓄品の確認

【参加人数】

21人（協議会員15人、市担当職員3人、小学校職員2人、防災専門員1人）

ここがポイント！

1. 避難者の受付時の飛沫防止対策に関して検討を行いました。
2. 避難者の居住スペースの確保に関して対策をしました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

飛沫感染防止用ビニールシート、ポール、養生テープ、フェイスシールド

必要なコト

新型コロナウイルス感染症対策についての事前勉強会、
教室の確認のための学校側との調整、
避難所内の居住スペースの配置構想づくり

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

谷口中学校避難所運営協議会で行った避難所運営訓練では、新型コロナウイルス感染症対策を盛り込んだ避難者受け入れ体制の準備を行いました。

【取組の目的】

体育館及び教室の収容可能人数や避難スペースまでの動線の確認などを行い、災害時、避難者を受け入れる際の体制を新型コロナウイルス蔓延時の想定に改めることを目的とする。

【主な取組内容】

- ・ 避難者の受付訓練（体温測定、手指消毒用スペースの設置など）
- ・ 体育館内の居住スペースの確認（三密を回避した状態での収容人数の確認）
- ・ 教室への体調不良者の誘導路の確保・確認

【参加人数】

26人

ここがポイント！

1. 三密を回避するために養生テープで一人当たりのスペースを作り、その際の体育館の収容人数がどの程度になるのかを確認しました。
2. 新たに避難スペースとなる教室を、要配慮者用や体調不良者用などというように、目的別に区分けして、迅速なゾーニングを行えるよう事前に準備をしました。
3. 受付訓練の際には、非接触型体温計や手指消毒液等を活用し、感染症対策を行いました。

📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

非接触型体温計、消毒液、受付用テーブル、避難者名簿、養生テープ、巻き尺

必要なコト

学校側との事前打合せ（体育館及び教室を訓練に使う日時の調整のため）

【問い合わせ先：大野南まちづくりセンター（042-749-2217）】

事例 3-14

ＬＰガスの提供を受けた炊出し訓練（小山地区）

災害の発生に伴い、向陽小学校に避難してきた避難者に炊出しを行う想定でＬＰガスボンベ等の物資の調達要請、搬入、設置、炊き出しという協定書に基づく実際の流れに沿った訓練を計画しました。

【取組の目的】

協定書に基づいた物資の調達要請から炊出しまでの手順と役割を確認するとともに、地域、市及び神奈川県ＬＰガス協会相模原支部の各組織間の連携強化を図る。

【主な取組内容】

- ・ 避難者の状況報告
- ・ 調達物資の要請（ＬＰガスボンベ、ガスコンロ、調整器等）
- ・ 調達物資の搬入、設置、３００食の炊出し、給食

ここがポイント！

1. 協定に基づいた実践的な訓練を実施することにより、各組織間の連携強化を目的としました。
2. 協定に基づき、各組織間の役割分担を次のとおり明確にして実施することを目指しました。

○小山地区連合自主防災隊から市に避難者等の状況報告

○市で調達物資の必要性の確認、協会に要請の手続き

○神奈川県ＬＰガス協会相模原支部で市から要請を受け物資を現地に搬入・設置

○小山地区連合自主防災隊で炊出し給食



📎 訓練実施にあたって用意するモノ＆コト

必要なモノ

鍋、アルファ化米、レトルトカレー

※神奈川県ＬＰガス協会相模原支部が訓練使用物品（ＬＰガスボンベ、ガスコンロ、調整器等）及び展示物品等（ガスメーター、ガス用発電機）を用意

必要なコト

訓練会場の確保、市及び神奈川県ＬＰガス協会相模原支部との調整

【問い合わせ先：中央６地区まちづくりセンター（０４２－７０７－７０４９）】

事例 3-15

地区と小学校給食室の連携による炊出し訓練（清新地区）

清新小学校の給食室で給食調理員が災害時を想定した炊き出しを実施し、清新小学校及び清新中学校の避難所と連携した配送訓練を実施しました。

【取組の目的】

地区防災計画に基づいた米飯の炊き出しの手順と役割を確認するとともに、地域、学校等の各組織間の連携強化を図る。

【主な取組内容】

- ・ 給食調理員による給食室の回転釜を使用した（300食）炊出し訓練
- ・ 炊き上がった米を回転釜から米飯缶に移す訓練
- ・ 米飯缶を給食室で、給食調理員から各避難所の炊き出し班に引き渡す訓練
- ・ 清新小学校から各訓練会場までの搬送訓練
- ・ 給食訓練

ここがポイント！

1. 地区防災計画に基づいた実践的な訓練を実施し、災害時の避難者への給食体制の強化が図ることができました。
2. 給食調理員が給食室内の回転釜を使って、アルファ化米（300食分）の炊き出しを行い、清新小学校及び清新中学校の炊き出し班が配送、盛付等を行いました。



📎 訓練実施にあたって用意するモノ&コト

必要なモノ

アルファ化米、米飯缶、リヤカー、しゃもじ、パック弁当容器、輪ゴム、割り箸、ゆかり、机（盛り付けや給食時に使用）、テント、衛生用品（帽子、エプロン、マスク、アルコール消毒液、ビニール手袋）

必要なコト

訓練会場の確保、給食室（栄養教諭、管理栄養士など）との調整、訓練の共通理解（各組織内、各組織間等の打合せ）

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】

中央小学校避難所運営協議会では、避難所倉庫に保管されている備蓄品の整理を行い、避難所開設時、即座に備蓄品を持ち出せるように準備をしました。

【取組の目的】

避難所倉庫に保管されている備蓄品の整理を行い、避難所開設時、即座に備蓄品を持ち出せるように準備すること、また、避難所にある物品にはどのようなものがあるのかを把握することを目的とする。

【主な取組内容】

- ・ 避難所倉庫内の掃除
- ・ 備蓄品の整理
- ・ 備蓄品の一覧、及び位置図の作成

【参加人数】

不明（避難所運営協議会が参加）

ここがポイント！

1. 避難所開設等の訓練の際に、訓練で使用した備蓄品を戻す位置が決まっていなかったことが、倉庫が整頓できていなかった一因であるため、位置図を作成し、訓練後にはどこに何を戻すのかが分かるようにしました。
2. うまく収納できるように物品の置き場所を変える、クリアケースでまとめておくなど、使うときに出しやすく見つけやすいように保管方法を工夫しました。

📎 実施にあたって用意するモノ&コト**必要なモノ**

クリアケース、棚の拭き掃除用具（雑巾など）、五十音順の物品リスト

必要なコト

同様の取組を行った避難所の避難所運営協議会から聞き取り
避難所運営協議会内での調整（日程、人員などについて）

【問い合わせ先：中央6地区まちづくりセンター（042-707-7049）】